

2023 年度事業報告書

公益財団法人 広島YMCA





ひとりがよくなると世界はきっとこう変わる。
ひとりが「よくなる」と、どんなコトが起きるだろう。
ひとりが「よくなる」と、
その人と出会った誰かがうれしくなる。
つまり、その人もきっと「よくなる」。
そして「よくなる」の繰り返しは社会や世界を
よりよくなっていくチカラになると思うのです。
その人と出会った誰かが「よくなる」
そんな出会いとつながりをYMCAは
これからも大切にしたいと考えています。
「よくなる」の連鎖はやがて
社会や世界を変えていくチカラとなっていく。
そしてきっと平和を形にしていける原動力となっていく。

SDGs × YMCA

グローバル・パートナーシップ

YMCA はポジティブネットのある 豊かな社会を創造します。

持続可能な開発目標（SDGsエス・ディー・ジーズ）とは、2015年9月に国連サミットで採択された2030アジェンダの開発目標です。17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（Leave no one behind）世界の実現を誓っています。

国内外で広がる貧困や格差、紛争や気候変動の課題、子どものいじめや虐待など、世界の共通課題に向けて、YMCAも国内外のグローバルなパートナーシップを活用し、多様な連携を通じて世界を変える一翼を担います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



■2023年度 公益財団法人 広島YMCA 活動実績

2023年

3/ 1 (水) -4/30 (日)	Amazonみんなで応援プログラム2023年度版実施
4/15 (土) -4/17 (月)	「みんなの市民サミット2023」 (NPO協力)
4/29 (土・祝)	「核兵器廃絶のためのG7国会議員フォーラム」 (NPO協力)
5/ 4 (木) -5/ 6 (土)	第54回全国YMCAリーダー研修会 (せとうち・倉敷青年の家)
5/17 (水) -5/21 (日)	G7先進国首脳会議/市民サミットC7イベント (NPO協力)
6/ 7 (水)	「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い2023を実施
6/11 (日)	原爆の子の像建立記念式典 (広島女学院大学協力/職員有志)
6/25 (日)	広島YMCA会員大会
6/27 (火)	国際リーダー会・留学生異文化交流会
7/ 8 (土) -7/14 (金)	ドキュメンタリー映画「飯舘村べこやの母ちゃん」上映会
7/24 (月) -8/ 4 (金)	ホノルルー広島国際交流「Let's Get Together」開催
8/ 4 (金) -8/ 7 (月)	広島YMCA国際青少年平和セミナー (ユースピースセミナー) 開催
8/ 4 (金)	市民平和行進 (広島県被団協・広島県生協連協力)
8/ 5 (土)	核兵器禁止条約締約国会議とNPT再検討会議に向けて (NPO協力)
8/ 6 (日)	平和の灯ろう流し
8/14 (月) -8/16 (水)	横浜YMCAキッズピースキャンプ受け入れサポート
8/22 (火)	旧日本銀行リニューアル工事公式記録撮影 (NPO支援)
8/28 (月) -9/30 (土)	マウイ島大規模火災緊急支援募金実施
8/29 (火) -9/ 3 (日)	ミュージカル「PEACE ON YOUR WINGSー平和は翼に乗ってー」
10/ 1 (日)	広島YMCAチャリティーバザー開催
10/25 (水)	広島YMCA創立85周年記念礼拝
10/25 (水) -10/28 (土)	ICAN ACADEMY開催 (広島県支援)
10/28 (土)	ウクライナ支援「フィーサンキの旅ー広島」開催
11/ 1 (水) -2024/2/29 (木)	広島YMCA国際協力募金 キックオフスタート
11/11 (土)	パレスチナ支援「STOP GENOCIDE IN GAZA」実施
11/18 (土)	世界YMCA・YWCA同祈祷集会 (広島YWCA主管)
11/23 (木・祝)	インターナショナル・チャリティーラン (実走大会再開)
12/ 1 (金) -12/25 (月)	Amazonみんなでサンタクロースプロジェクト開始
12/10 (日) -12/15 (金)	広島YMCA国際協力募金・街頭募金活動①②

2024年

1/ 5 (金) -3/31 (日)	能登半島地震緊急支援募金
1/13 (土) -1/18 (木)	能登半島地震緊急支援 街頭募金①②
1/19 (金) -1/20 (土)	ICAN事務局長メリッサーパーク氏来広 (NPO協力)
1/22 (月)	核兵器禁止条約発効3周年を祝う広島集会 (NPO協力)
2/28 (水)	YMCAピンクシャツデー (全国YMCA協働)
3/11 (月)	3.11東日本大震災を忘れない追悼の集い(広島市社協協力)

1) 平和教育活動

広島市の被爆体験を次世代に継承し、核兵器廃絶につながる学びや世界の紛争地域の状況や支援の必要性について、実際に世界の若者と対面し、議論を通して今後の課題について学びました。

① Y M C A ユースピースセミナーの実施

8月4日から8月7日の期間、広島 Y M C A ユースピースセミナーが開催され、国内外の若者が広島に集まり平和についての学びを深めました。平和記念礼拝・被爆証言・平和記念公園における慰霊碑めぐりや資料館見学・原爆の子の像千羽鶴献納・リーダーが企画したグループワークを通して平和についての学びを深めていきました。最終日の8月6日には平和祈念式典に参加し、ピースセミナーのまとめを行い、最後に灯ろう流しに参加しました。



② 平和の灯ろう流しの実施

8月6日夕方から4年ぶりに平和の灯ろう流しを行い、220名の子ども達・ファミリー・国内外の若者たちが参加しました。夕方17:00に Y M C A に集合して、世界から送られてきた平和のメッセージが書かれた絵で灯ろうづくりを行いました。佐々木禎子さんの折鶴の話をみんなで聞いた後、平和記念公園親水テラスに出発。ボランティアの方々にキャンドルを点火してもらい、元安川に浮かべて祈りを捧げました。



③ 市民平和行進

広島 Y M C A は、生協ひろしまとの共同で、1979年から市民平和行進に取り組んでいます。今年はコロナ禍も落ち着き、平和行進の実施が再開され、アリスガーデンから平和記念公園に向け行進を行い、資料館からゴールである慰霊碑にて献花を行いました。生協ひろしま・広島県原爆被害者団体協議会（以降被団協）・広島 Y M C A の3団体が参加し、平和記念公園内で行われる献花式に市民グループの代表として参加しました。



④ 平和のための国際NGOおよび地域NPOとの協力

◆ 国際NGOとの協力

「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」「ピースボート」「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」などの協力により、核兵器禁止条約批准の後押しをするための共同行動（集会やイベント）を展開しました。

特に2023年度は、日本核廃絶NGO連絡会議が主催した国連・ICAN・日本政府と各政党の党首を交えた討論会では、広島 Y M C A も事務局として日本の核政策に関する情報を国内外に向けて発信しました。



◆地域NPOとの協力

広島YMCAは、広島県原爆被害者団体協議会（被団協）が行う活動のサポートを行っています。2023年度は計4回の「政府に対し核兵器禁止条約への批准を求める署名活動」を行いました。7つの被爆者団体では核兵器禁止条約の発効後、2024年3月末まで署名を集める活動を続けています。2か月に1度街頭署名活動が平和記念公園の元安橋で行われ、核兵器廃絶にむけての地道な活動を続けています。

◆広島県へいわ創造機構ひろしま（HOPE）との協力

広島県のHiroshima Organization for Global Peace/略称: HOPE（ホープ）や国際NGOのICANと広島県が行う「ICAN ACADEMY」の運営に広島YMCAは協力し、公式記録の提供を行いました。

◆広島平和文化センターおよび平和首長会議との協力

広島市平和文化センターのイベント協力は従来通り行っていますが、2023年度は特にICAN新事務局長メリッサ・パーク氏の来日もあり、広島市と協力し事務局長来日におけるイベントサポートを主催団体として行いました。また、平和首長会議の公式記録としてデータの提供を行いました。

◆核兵器禁止条約発効3周年を祝う平和イベント協力

核兵器禁止条約が発効された1月22日に広島市内で活動をするNPOが協力し、条約発効3周年を祝うキャンドルイベントが原爆ドーム前で行われました。広島YMCAも平和活動NPOの1つとして、この活動をサポートしました。会場の設置やイベントの運営、記録などの役割を広島YMCAスタッフやリーダーたちで担いました。

◆広島県生協連との協力「戦争も核兵器もない平和な世界を」

この市民の集いは、核兵器廃絶を願い思想信条を越えて結成された市民6団体が、行政と連帯して「戦争も核兵器もない平和な世界を」めざした取り組みで、広島YMCAも市民団体の代表として、また、主催者の1つとして参加しています。

今年度は、ジャーナリストの小山美沙さんから「黒い雨訴訟」に関するテーマで特別講演をいただきました。広島県生活協同組合連合会・広島県原爆被害者団体協議会・広島YMCAの事務局が共同し、会の結びに平和アピール文が読み上げられ、満場一致で採択がなされました。

◆市民NPO協力による「STOP GENOCIDE IN GAZA」集会

11月11日（土）17:00～18:30 原爆ドーム前でイスラエルのガザ侵攻に対する反対集会が行われました。題して「STOP GENOCIDE IN GAZA」とイスラエルの即時停戦を訴えるキャンドルアクションで、広島YMCAは主催者の呼びかけ人の一つとしてこの活動に賛同し、運営を行いました。



2) 地域奉仕活動

広島YMCAの会員の皆様、ボランティアリーダーの方々と共に、障がいのある子ども達や生活困窮状態にある方々への支援活動、チャリティープログラムを実施し、地域社会への奉仕活動を行いました。

①インターナショナル・チャリティーランの再開

個人や企業を対象に、障がいのある子ども達の支援のためのランニングイベントを企画し、参加費・協賛金を支援活動に充当しました。特に2023年度は広島城ランニングコースでの実走大会を4年ぶりに開催しました。

日程：11月23日（木・祝） 申込者：185名

協賛：24団体

・株式会社アズライフ・株式会社飯南トータルサポート琴引フォレストパークスキー場・ENEOS グローブエナジー株式会社・オタフクソース株式会社・加茂商事株式会社サッカーショップ KAMO・株式会社金正堂・株式会社コセヌプリ・株式会社サンフレッチェ広島・シーコム・ハクホー株式会社・ダスキン東広島支店・株式会社たびまちゲート広島・有限会社チームス・学校法人広島女学院・フィッシングレイク高宮・山下江法律事務所・ユカリス湯来・鯉城タクシー株式会社・株式会社糧配・広島ワイズメンズクラブ・福山ワイズメンズクラブ・呉ワイズメンズクラブ・東広島ワイズメンズクラブ・岩国みなみワイズメンズクラブ・米子ワイズメンズクラブ（瀬戸山陰部）

全国YMCAの障がい児プログラム運営に106,036円 支援

広島YMCA障がい児クラスの活動に247,418円 支援



②Amazon「みんなで応援プログラム」

「みんなでサンタクロースプロジェクト」の実施

Amazonのご協力により、通販サイトを活用したチャリティーキャンペーンを広島YMCAで実施しました。広島YMCAの公益活動で必要としている支援物資をAmazonの通販サイトに登録し、プログラムの趣旨に賛同された方々に購入いただき、支援物資として届けていただく活動を行いました。Amazonのパートナーとして、全国23のYMCAでこのキャンペーンを展開しました。

・主な支援品

学童保育用図鑑・テーブルゲーム・学習用玩具等
一人親家庭支援フードバンク用クリスマスカード
一人親家庭支援フードバンク用ツリーオーナメント
子ども食堂用食器セット（カレー皿他）



③いじめに反対するピンクシャツデーの実施

2月28日（水）ピンクのシャツや小物を身につけて「いじめ反対」のアピールを行いました。2023年度はYMCAのすべてのランチから趣向を凝らした写真やいじめ反対のメッセージが届くようになり、この活動も年々拡大しています。



3) 国際交流・国際支援活動

広島YMCAの持つ国際的なネットワークを活用し、国際交流を促進し、合わせて海外からの来広者に対し、被爆地広島の体験を広く伝えました。また、世界で起きる自然災害や紛争地域への人道支援、開発途上国や地域への支援の必要性を広く訴え、日本YMCA同盟を通じて国際支援を行いました。

①広島-ホノルル青少年交流プログラム (Let's Get Together)

4年ぶりにホノルルから学生を受け入れ、7月24日から8月3日までの11日間、国際交流プログラムを行いました。ホノルルからは9名の学生が参加をし、広島の中高生とのキャンププログラム等を通して親交を深めました。7月28日から31日の期間はホストファミリーの家にホームステイをして過ごしました。

プログラムの最初は緊張していた様子もありましたが、さよならパーティーではお互い涙を流して別れを惜しんでいました。

コロナ禍も明け、渡航制限が解除されてから久しぶりに対面での実施になりましたが、やはり顔を見て直接言葉を交わすことが親交を深める一番の方法だと改めて感じました。



②広島-ハノーバー青少年交流キャンプ (Global Youth Friendship)

1988年にパートナーシップ締結、1992年から国際交流プログラムとして継続していましたが、コロナ禍による渡航制限のため、派遣・受け入れを中止していました。2023年度はハノーバーYMCAの理事長が広島を訪れ、再開に向けたミーティングを行い、2024年度からの再開を約束しました。



③日中韓YMCA平和フォーラム

2024年2月1日(木)～4日(日)の期間で、中国上海において日中韓YMCA平和フォーラムが開催され、3か国から約80名の参加者がありました。広島YMCAからは、総主事と国際担当者の2名とユースリーダー2名が派遣され、日中韓3国が抱える課題について積極的な討論が行われました。

特にユースリーダーは初めての北東アジアへの派遣のため、日本が行なった戦時中の中国・韓国への戦争加害についてしっかりと事前研修を行い参加することができました。交流を深めた中国・韓国の若者とユースピースセミナーで再会する予定です。



④マウイ島大規模火災緊急支援募金の実施

2023年8月8日にハワイ・マウイ島で発生した大規模火災の緊急支援として、火災が発生してすぐ、マウイ島にあるマウイ・ファミリーYMCAはシャワー、避難所、託児所、食料、避難民の救済など支援活動を開始しました。同様に広島YMCAと60年以上の強い絆で結ばれているホノルルYMCAもマウイ・ファミリーYMCAの支援、ならびにホノルルのあるオアフ島に避難されている方の支援を行いました。広島YMCAもホノルルYMCAを通して、被災された多くの方々のために緊急支援募金活動を行い、1か月で約50万円の支援金が集まり、ホノルルYMCAに送金しました。



4) 災害支援活動

2023年度の災害復興支援活動は、以下の活動が行われました。

3.11東日本大震災を忘れない追悼のつどい

広島市災害ボランティア連絡調整会議（Y M C Aも加盟団体の1つ）のNPOが協力して、毎年、平和記念公園にある親水テラスにてキャンドルを灯し、東日本大震災で被害に遭った方々を追悼する慰霊のイベントが2012年から続けられています。今年は東日本大震災だけではなく、能登半島地震追悼の思いも込められた集会が行われ、それぞれのNPOが集まり追悼集会が行われました。



能登半島地震緊急支援募金

広島Y M C Aでは、1月1日に発災した能登半島地震への支援活動として、全国に先駆け1月5日より緊急支援募金活動を開始しました。1月13日と18日には広島市中心街にて街頭募金を実施。

当初1月末までの予定としていましたが、日本Y M C A同盟の全国的な通知により、募金期間を3月31日まで延長し、総額で1,567,806円の募金を集めることができました。日本Y M C A同盟を通じ、避難所支援事業に活用され、広島Y M C A独自の活動にも活用される予定です。



5) ボランティア・リーダー／ユース育成活動

広島Y M C Aの会員の皆様、市民の皆様にボランティアの機会を提供し、様々な活動を通してボランティアの育成を図りました。また、日本Y M C A同盟が行うリーダー育成事業・ボランティア育成事業に参加する機会を設け支援を行いました。特に2023年度は、コロナ禍も落ち着き多くの国際大会も開催され、海外や広島において多くの国際交流の機会を提供しました。また、全国的なユース研修にリーダーを派遣し、広島におけるユースエンパワメントの醸成に努めました。

◆世界規模の研修会や大会にY M C Aリーダーを派遣

2023年度は、9月13日（水）～19日（火）インド・チェンナイにおいてAPAYアジア・太平洋Y M C A大会が開催され、広島からは2名のユースリーダーを派遣しました。また、5月4日（木）～6日（土）倉敷で開催された全国Y M C Aリーダー研修会には3名のリーダーと1名のスタッフを派遣しました。



◆ICAN事務局長・メリッサ・パーク氏講演会支援

ICAN事務局長のメリッサ・パーク氏が、1月19日（金）～20日（土）で広島を訪問しました。2日目の1月20日（土）には平和資料館にて記念講演会が実施され、その講演会の総司会を広島Y M C Aの国際リーダーの2名が担当しました。原稿づくりもしっかり行い、緊張の面持ちではありましたが、2時間半にも及ぶ大役を無事に成功させることができました。リーダー達にはとても良い経験となりました。



6) 協力団体との活動

◆世界YMCA/YWCA合同祈禱週 広島集会

世界のYMCAとYWCAは1904年以来、11月の第2週を合同祈禱週とし、毎年一つのテーマを決めて世界の各地で礼拝や集会を行っています。今年は『種から花へ～手を取り合って、希望と愛を育てましょう』というテーマで、11月18日(土)13:30～15:00に広島YWCAが主管となり、広島女学院中学高等学校講師の刀祢館先生をお招きし、日本バプテスト広島キリスト教会を会場として3年ぶりに対面式で開催されました。次年度の合同祈禱週は、呉YWCAが主管となる予定です。



◆原爆の子の像建立記念式典 広島女学院大学と協力

1958年に建立された原爆の子の像。通常であれば5月5日が建立記念日ですが、2023年度はG7の関係で6月11日に式典を行いました。YMCAからは、チャプレンの立野牧師が開会祈禱、家守副総主事が代表として挨拶、黒瀬名誉理事長が最後の挨拶として原爆の子の像建立と原爆ドーム保存運動を行った河本一郎氏と折鶴の会の子ども達のお話をいただきました。YMCAからは6千羽の千羽鶴を献納し、祈りを捧げました。



◆「G7サミット」「C7サミット」における市民NPO協力

C7とはG7の公式な政策提言グループの1つで、世界中の市民社会組織が集まり、「核兵器廃絶」/「気候・環境問題」/「公平な経済」/「国際保健」/「人道支援と紛争」/「開かれた市民社会」などの政策課題に対してG7各国に政策提言ができるオフィシャルなワーキンググループのことです。4/15～17のG7にあわせた広島大会の3日間、YMCAは実行委員会の1つとして、C7の運営の役割を担いました。



◆ウクライナ避難者支援 「フィーサンキの旅」 ウクライナ文化紹介(ウクライナ人会協力)

広島YMCAは、広島ウクライナ人会とのつながりの中でウクライナ避難者の支援活動をしながら、ウクライナの歴史や文化に触れる機会を提供しました。10月28日(土)に、ワークショップ「フィーサンキの旅ー広島」というテーマでワークショップと展示会を開催。

フィーサンキとは、ウクライナの特産品、蠟結染め技術によって装飾された卵で、11世紀以後キリスト教の復活祭イースターに用いるイースターエッグとなりました。ワークショップでは、ウクライナ出身で20年以上フィーサンキ制作に携わっているTetyana Solotska(テチャーナ・ソロツカ)さんを講師として、後援にはウクライナ大使館や広島YMCAが協力し実施されました。

この収益は広島県ウクライナ人会の活動に活用されました。今後も引き続き避難された方々へのサポートを継続してまいります。





4年に一度開催される「アジア・太平洋YMCA (APAY) 大会」が9月13日～19日、インドのチェンナイ(旧マドラス)で開催されました。大会テーマは「回復力のあるコミュニティとして共に歩む-Vision2030を通しての生き方の変革」。21の国と地域から344人、日本からは46人が参加し、前回2019年に日本で開催された第20回大会以降の4年間で最も多くの参加者となりました。コロナで会えなかった仲間たちとの親交を深め、世界のYMCAと手を携えて「Vision2030」に取り組んでいくことが確認されました。

大会前半の9月13日～15日には、35歳以下を対象とした「ユース・アッセンプリー」が開催されて約130人が参加し、各国のジェンダー平等を共有する「ジェンダー平等フォーラム」も行われ、ジェンダー平等に関する議論が出されました。15日からの「総会(ジェネラル・アッセンプリー)」は、メルボルン神学大学教授モニカ・メランションさんによる基調講演でスタート。聖書のサムエル記に登場するリズバという女性の物語を引用し「コロナ後のYMCAが回復力を高めるための運動を継続していくためには、信頼できる人間関係と信念、柔軟性が欠かせない」とのメッセージが送られました。世界YMCA同盟のカルロス・サンビーニ総会事務局長も参加し、世界を取り組み始めた「Vision2030」への夢が呼びかけました。総会ではまた、4年に一度の役員改選選挙も行われ、これまでAPAYの理事を務めた岡戸良子さん(1期OPPHON)に替わり、次期会計監査役として山本俊彦さん(日本YMCA同盟常務委員)が選出されました。山本さんは元東京YMCA主席で、その後牧師となり、日本キリスト教協議会総会理事や関西学院大学教授などを歴任。法履が期待されています。新会長にはマレーシアYMCA推薦のフィリップ・トーマス氏が就任。引き続きAPAYのナム・ブウォン総会事務局長も、次期4年の任期が迫ります。

途中、「ユース・アッセンプリー」会場で感染症が拡がり、日本のユース●人が原因不明の発熱にかかるという事態に見舞われましたが、全員無事に回復しました。一部のプログラムに参加できず残念な思いをしたユースも多かったものの、貴重な経験をしたとの報告が寄せられています。感想を聞きましたのでご紹介します。

ユースの可能性を実感

ユースアッセンプリーに参加

広島YMCAユースリーダー 岡茂 夏菜さん(大学4年)

私はもともと国際交流に関心があったのですが、大学入学と同時にコロナ禍で、どこにも行けなかった中で、今回は毎月行きたい!と誓って参加しました。

ユースアッセンプリーではまず参加者同士でそれぞれの活動紹介をしたのですが、異文化理解や女性支援に関わるインドの学生の話など、とても新鮮でした。分団では、韓国の学生たちと「生きづらさ」や将来の不安について共通し合う場面もありました。

フィリピンの方による基調講演では、たとえば児童労働や子どもの人権といった世界規模の課題に対して「ユースこそ解決の力を握っている」という話を聞きました。「まずは世界の人たちとコミュニケーションをとることから始めよう」と。世界の仲間とつながりながら、自分の場所ですることをしていく、小さくてもいいから一歩を踏み出していくことで世界は変えられる。ユースには力がある。そんな力強いメッセージに会場も感動してました。

その後は体験を通して、春大会には出られなかったのですが、大会後には招待して一人でボンベイYMCAを訪ね、今年夏月に広島YMCAのピースセーターに参加してくれた仲間たちと再会することができました。卒業からは社会人になりますが、YMCAに出会った仲間とのつながりを大切に、広島でピースセーターを広めたいと考えることに決めました。広島でピースセーターを広めたいと考えることに決めました。広島でピースセーターを広めたいと考えることに決めました。

交流会で「二人三脚」を体験した岡茂さん。

▲THE YMCA 2023年11月号掲載より

APAYアジア・太平洋YMCA大会が9月13日から19日・インドチェンナイで開催。広島YMCAからは岡茂さん・服部さんを派遣岡茂さんの記事が全国YMCA誌に掲載される (P8内容報告)



【根本佳奈】元日に発 八丁堀交差点で募金活動をしたYMCAの会員ら。被災地支援に立ち上げ呼びかけると、通行人が次々と募金箱にお金を入れた。募金は日本YMCA同盟を通じて、被災地支援に充てられる。小学生以下の子もや留学生、職員など45人が参加。家族も参加した広島大付属東葉小1年、フランチェスカさん(7)は「大地震が発生したニュースを見て大変だ、何かしたいと思った」と話した。18日には広島YMCA保育園(中区)の園児らも同様に募金活動をする。



発効3年になる核兵器禁止条約について講演するICANのパーク事務局長(右)

核禁条約 日本の署名求める

非政府組織(NGO)「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)のメリッサ・パーク事務局長(57)が20日、広島市中区

の原爆資料館で講演した。22日に発効3年を迎える核兵器禁止条約について「核兵器のない世界を実現するための入り口でなくてはならない」と強調し、日本政府も条約に加わるべきだと訴えた。

条約の制定に貢献したICANのパーク氏は発効からの3年を振り返り、「条約は大きな影響を与えている。核兵器を巡る議論で人道面や環境面の影響に目

ICAN事務局長、広島で講演

を向けさせた」と成果を述べた。一方で、米国の「核の傘」に依存して禁止条約に背を向ける日本政府について「被爆者の苦しみを考えると、本来ならば最初に条約に署名する国であってほしかった」と指摘。「核の傘」と決別し、条約に加わる責務がある」と迫った。

広島県被団協の箕牧智之理事長(右)や平和活動に携わる若者とのパネル討論にも参加。若者からの「日本政府の姿勢を変えるには」との質問に対し、核抑止論の危険性への認識を高める重要性などを指摘した。講演会は、約200人が参加した。(水川恭輔)

▲2024年1月21日中国新聞朝刊より

ICAN事務局長メリッサ・パーク氏講演記事。広島YMCAは主催者として講演会の運営をサポート。国際リーダーの服部さんと山路さんが講演会の総司会会で進行を担当。(P8内容報告)

▲2024年1月14日 毎日新聞朝刊掲載

1月13日(土)広島市内繁華街で実施された能登半島地震緊急支援街頭募金の様子が掲載され、1月18日(木)実施の保育園による街頭募金の告知もあわせて掲載されました。(P8関連報告)

2023年度事業報告書

発行 2024年6月1日
 発行元 公益財団法人 広島YMCA
 〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11
 Tel 082-228-1151
 E-mail gcc@hiroshimaymca.org
 デザイン 公益財団法人広島YMCA
 制作 国際コミュニティーセンター



みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 広島YMCA

〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 Tel 082-228-1151 Fax 082-211-0366